

泌尿器科専門医に聞く

泌尿器科部長

いしうら よしゆき
石浦 嘉之



勇気を出して尿もれで困らない生活をめざしませんか。



尿もれは成人女性の3人に1人が経験するとされています。医療は進歩し適切な治療で尿もれの多くは改善します。タイプにより治療の方法が異なりますので、適切な診断が重要です。大まかには問診で判断できますが、正確な診断を行うには泌尿器科に受診の上幾つかの検査が必要です。

急にトイレに行きたくなって間に合わないタイプを『切迫性尿失禁』といいます。膀胱が過敏になり、過剰な働きをすることにより起こる尿もれです。治療には、過剰な働きを抑える抗コリン薬やβ3作動薬というお薬を使います。薬の種類や量を調整する必要があり、専門医師と相談されることをお勧めします。また薬による治療では改善しない重症切迫性尿失禁もあります。当院は県内唯一の難治性過活動膀胱治療実施施設であり、重症症例に対して県内他施設から紹介を頂き、手術治療を提供しています。

次に、女性に最も多い、咳やくしゃみ、立ち上がったときに起こる尿もれ『腹圧性尿失禁』です。出産や加齢などによる骨盤底筋の緩みにより起こります。治療としては、緩くなった骨盤底筋を強くする必要があり、主な治療は骨盤底筋体操か手術になります。骨盤底筋体操は軽症には効果がありますが、継続しないといけません。腹圧性尿失禁には手術治療が最も効果的です。お腹を切らず外陰部に7mmくらい切開してプロリンテープを用いるTOT手術という簡単な手術で、有効率は90%以上です。手術時間は30分程度で手術の翌日に尿の管を抜いて、数日後には退院できます。骨盤底筋体操の効果が乏しい方、中等症から重症の方はTOT手術がお勧めです。

当院では県内で最多の治療実績を有する日本排尿機能学会認定医である石浦がTOT手術を担当します。尿もれでお悩みの方は是非泌尿器科外来に受診の上ご相談ください。治療された方からは、「こんなに簡単に治るのだったら早く手術をすればよかった」という声が多く聞かれます。尿もれは我慢してもよくはありません。皆さんも一歩踏み出して快適な生活をとりもどしてみませんか！



【富山ろうさい病院 市民公開講座】

テーマ 「手術室からこんにちは：あなたの知らない手術室の世界を教えます」

講師 泌尿器科部長 石浦嘉之

日時 令和元年8月18日（日）13:00～14:30

場所 富山ろうさい病院 3階 大会議室 ※参加無料

